

子どもたちの家族観

今年も残り1か月で終わろうとしています。師走という、私が子どものときは、大掃除をさせられたり、お節料理をお重に詰め込むを手伝わされたり、買い出しの荷物を持たされたり、ついた餅を丸めるを手伝わされたりとあまり好きじゃないことに追われていました。保護者の方々の世代もほぼそんな体験をしてきたのではないのでしょうか。今は少しずつそうした風景は変わってきているのかもしれませんが、子どもたちにとって、家族で年末年始を過ごすのが楽しみなのは今でも変わらないでしょう。



毎年2学期に、本校の5年生は「いのちのきずなメッセージ」に応募しています。市内の中学2年生、小学5年生を対象に「家族」「友達」「いのち」「感謝」「夢」のどれかをテーマに200字程度のエッセイを募っているコンクールです。今年も子どもたちの思いが詰まったメッセージに私も目を通しました。「感謝」を選んだ子はたいてい家族への感謝、「夢」や「命」を選んだ子も、自分の家族が起点となって綴っている子がほとんどです。

※以下抜粋

- 家族のことを信用しているから、友達には話せないことも話すことができます。(Mさん)
- 特別なことは何もないけど、家族みんなでいっしょにいることが楽しくていいのです。(Yさん)
- 喜ばせたくて手伝うと失敗して怒らせてしまいます。そこで、家族にずっと笑っていてほしいので、家で面白いことがあったら紙に書いて箱に入れておいて、それを見て笑ってもらうのをやっています。(M君)
- ぼくはよくお母さんから「人間はいつどこで死ぬかわからないから、1日1日を大切に後悔しないように生きてほしい」と言われます。(T君)
- 私は縦にも横にもつながっています。どこかのつながりが切れていたら私はいないのです。(Kさん)
- お姉ちゃんはお手伝いをしていますが、ぼくはしていません。たまにはしないと悪いなどは思っています。(S君)
- もっと上手になって水泳選手になり、大会で上位をとって家族を喜ばせたいし、感謝の気持ちも伝えたい。(Tさん)
- いつどこで自然災害が起こるかわからないと改めて思ったのと同時に、今、ぼくの大切な家族や友達をもっと大事にしたいと強く思いました。(T君)
- だから人の役に立てる仕事につくためにがんばっていきたくて、家族も応援してくれているので、そのためにもがんばりたいと思います。(Rさん)

どうでしょう。それぞれの家庭の絆が浮かんでくるようです。想像以上に子どもたちは「家族」のことを理解していて「感謝」し、親から自分へ「命」をつなげてくれたことに奇跡を感じ、親の姿を見て自分の「夢」を持っているようです。

年末年始を含め、この冬、家族のつながりがさらに深まりますように。

<学校長>

★貴志南小学校では、ホームページを設けています。<http://www9.wakayama-wky.ed.jp/kishiminami/>

※写真等は児童個人を特定できないように配慮しています。